



不登校や発達障害のある生徒らの学習の場となる高等専修学校「佐賀星生学園」が開校した。

教師やスクールカウンセラーとして15年間、不登校の子どもたちと関わってきた。義務教育までは手厚い支援があるものの、それ以降の学校や支援団体が少なく、中学校のスクールカウンセラーとして、多くの先生から卒業後の進路がないという悩みを聞いてきた。高校卒業資格をどうやって取るかが課題で、高校課程を乗り越えないと社会に出るのが難しい。自立支援のため、専門知識を

ほっしょう 佐賀星生学園校長

加藤雅世子さん (52)



かとう・かよこ 白石町出身。佐賀大学大学院教育心理学コース修了。臨床心理士、学校心理士。不登校支援の学校教員やスクールカウンセラーを経て現職。佐賀市天祐。

生かした教育が行える学校が必要と思っていた。今春は41人が入学、独自のカリキュラムを通し、新たな学園生活を送っている。

不登校だったり、発達障害のある子どもたちは対人関係でつまずきも多い。学力はもちろんだが、社会で大切な対人

関係をつくるコミュニケーションスキルを身につける教育に重点を置く。「勉強することは楽しい」「学校が楽しい」と思えるよう、基礎学習の積み上げを図る。人と関わり方や、自分を表現する力を学ぶ方法を継続的に学習し、総合的な社会適応性を教育していきたい。現在の私立高

校では不登校であっても受け入れるが、普通に中学校を過ごしてきた子どもたちと一緒に学ぶのはハードルが高い。普通の高校とは違うカリキュラムが学校に来やすい環境となる。周りのみんなが仲間との意識も大切だ。

の環境や年齢層も幅広く、教育、心理両面でのサポートが求められる。不登校の生徒たちは過敏というか、人の気持ちは良く分かる繊細な子どもたちが多い。発達障害に対してもそれを一つの特性とみて、みんな温かい目で見ている。ここでは午前中がレポート科目となる学習の時間、午後からソーシャルスキルトレーニングなど自分を表現したり、好きなことを思い切りやってもらう時間。学校が楽しく思える時間を組んでいく。まず、その空間に慣れることを大切にしたい。

高校転編入、社会人、発達障害と生徒

在籍期間で必要な単位を取得、卒業後の自立のためのスキ

■ 学校を楽しく思えることが大事。対人関係の能力育てたい

ルアップを図る。高等専修学校卒業だけでは社会的認知も低く、生徒の不利にならないよう通信制高校と連携し、卒業に必要な単位を履修・習得できるカリキュラムを組んでいる。学習指導の在り方では、チームでやらないと子どもたちに伝わらないという考え方を大事にしている。個別の指導計画を立てながら、保護者の方と一緒にやっていくことも重要。一人一人がちゃんと自立することを願って登校ができることを目標にしている。不登校と長く関わってきた経験から、1年間頑張れる子はその後も大丈夫